

私が在宅で診ているのは非がん患者が多く、麻薬はあまり使ったことがないので、大変勉強になりました。
ホスピスの緩和治療が具体的で大変わかりやすかったです。
阪神大震災前に西宮の病院にいる時に、MS コンチンで在宅看取りを何例か経験し、家族や本人に大変喜ばれました。以後現在は療養型病院で、概ね長尾先生の考えておられるようなことを励んでおります。点滴は1日500ml、嚥下障害が改善できそうな患者にはPEGを、がん末期患者にはデュロテップで、皆さん在宅で美しく旅立たれます。PEGもバンパー型からバルーン型に変える時、引き抜かずに切断し、排便出を待つようにしています。イレウスの既往のある患者はGFで回収しましたが、血だらけになりました。何十例か切断排泄をしましたが未だ問題は起きていません。
緩和治療をする経験が今まであまりなく、非常に良い勉強ができました。
先日緩和ケアの講習を受け、ロールプレイを行ったりしましたが、最後の映画が大変強烈で、この映画を1本見ることがひよっとしたら緩和ケアのエッセンスになるのかもと思いました。
映画「大病人」をご紹介いただき、ありがとうございます。患者・家族への提案に映画の内容や台詞を使わせていただきたいと感じました。
現状の現場の臨床より提案があり、医療の本質と思うような迫力のあるレクチャーでした。
実際の臨床現場での生の声が聞けて、共感できました。
「大病人」も興味深かったので、今度見てみようと思います。
看護師との協働の心をどうやって変えていくか、高齢医師は苦戦する所です。
個人的には近年よく勉強する内容だったが、改めて整理ができた。
肺がんの患者の呼吸困難は、家族の方もつらく、実際に在宅で診るのは難しいです。先月も結局救急搬送にて入院していただきましたが、2日後に亡くなりました。もう少しできることがあったのではと後悔する一方、家族は満足されていました。
家族の希望により、告知のないがん末期患者への緩和ケアを経験しました。「なぜ痛いのか」「なぜ薬がどんどん増えるのか」を理解できずに痛みばかりが襲ってくる状態に不安や不満を募らせているのが見て取れ、心苦しかったものです。先生はそのような際には、どのように対応されているのでしょうか。
ホスピスの歴史から在宅での疼痛管理まで具体的な内容でわかりやすかったです。
ベース薬とレスキューの使い方がよくわかりました。考えてみれば、使用していたレスキューはやはり少なすぎると思いました。実際の在宅では、麻薬管理は誰が行っているのでしょうか。

講義Ⅱ 「在宅療養支援診療所の医療の実際～終末期医療～」
平穏死を普及するには、まず学生の段階で死生学を学ぶ必要があると感じました。
Thematology（血液学）を先生のように笑いを交えて上手に講義される医師をもっと増やして欲しいです。
今後の日本の多死社会には「平穏死」の概念が重要と思いますが、患者の家族（特に遠方のお子さん等）への説明・同意が最も重要ということは同意します。
「がん」と「認知症」と「～不全」はまさに常日頃対象としている患者ばかりです。療養病院勤務ですが、在宅に繋がられるよう工夫したいと思います。
入棺体験はやってみたいと思いました。医師法21条・20条のことが再確認できました。
終末期の考え方が大変難しい物であることがわかりました。日本人の文化との関係も深く、問題は深いと思いました。
日本の家族性（制）に合った在宅の死を医療だけでなく、住民も一緒に考える機会を作る必要性を強く感じた。
ためになる話で勉強になります。最期の時の考え方を自分なりに再考してみようと思いました。
在宅で一人住まいの徘徊老人にどう対処するか、認知症老人の暴力や家族によるDVにどう対処するか・向き合うか、看取りの死亡診断書が正確であるか（外因死でないか）など、別の意味での社会的見地からの講義をして欲しかった。
平穏死を家族が妨げるのは、その人が築いてきた家族関係の集大成だと認めても良いのではと感じた。
今回の話を契機に「平穏死」や「リビング・ウィル」について考えを深め、何らかの形で実践したいと思う。
私は基本的に訪問診療をしているのですが、私も自宅で平穏死できるようにと考えております。
当院は療養病院で、最近では最終段階に近づくと、高カロリー輸液を中止し、ソルデムなどの末梢輸液を500mlほどに減らして見守るようにしています。先日、患者の妻が「点滴も止めて欲しい」と希望され、患者はそのまま死を迎えましたが、奥さんは満足していらっしゃいました。先生のお話を聞いて、「そういうことだったのか」と納得しました。

講義Ⅲ 「今後の在宅医療の方向性」
2025～2040年問題では、介護を受ける身になるかもしれません。今から良いシステムを構築したいものです。
認知症・大腿骨折でせん妄があれば地域に戻すという体制が必要と思いました。
医療提携体制の概念が概ね理解できました。
認知症・嚥下障害など具体的な繋がりが良かった。東京都の取り組みを具体的にスライドに入れて頂けると良かったです。
在宅医療に関わる医師は積極的に地域と連携する必要性があると痛感しました。

講義Ⅳ 「在宅医療における総合機能評価と疾病管理」
病院の入院とは異なり、1人の医師に依存してしまう在宅医療において、客観的な評価が大切と感じました。
「サイエンスの部分とアートの部分のバランスが重要」という部分は、なるほどと感銘いたしました。
在宅医療の話かどうかと言うと、少し疑問があるかもしれません。評価は良いのですが、病院の理論で在宅医療の評価としてはどうかと思いました。1つ大きな間違いだと思っているのは病院の質が落ちると、在宅医療のレベルが上がります。あくまで提供する医師の問題で、病院の問題ではないと思います。
CGA（高齢者総合機能評価）をやってどうなったかが聞きたかった。
急変時の対応に関しては、自宅で看たいと家族がおっしゃっても、いざとなると救急車を呼ばれることも多く、いつも無力感を持ちます。情報の共有をしっかりとしなければと思います。

2. 介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修－医療介護士養成講座－

2-1. 第3回東京会場プログラム

平成26年5月24日（土）

9:30～11:30	2 保健医療制度とチーム医療 ・保健医療に関する制度（1.0） ・医行為に係る法律（0.5） ・チーム医療と介護職員との連携（0.5） 講師：富家隆樹（医師） 富家病院理事長
11:40～13:10	1 人間と社会 ・個人の尊厳と自立（0.5）、・医療の倫理（0.5） ・利用者や家族の気持ちの理解（0.5） 講師：桑名斉（医師）
14:00～16:00	3 安全な療養生活1 ・喀痰吸引や経管栄養の安全な実施（2.0） 講師：藤崎剛斎（医師）
16:10～18:10	3 安全な療養生活2 ・救急蘇生（2.0） 講師：榊原麻希（看護師）

平成26年5月25日（日）

9:00～10:00	4 清潔保持と感染予防1・2 ・感染予防（0.5）、 ・職員の感染予防（0.5） 講師：仲井培雄（医師）
10:10～11:40	4 清潔保持と感染予防3・4 ・療養環境の清潔、消毒法（0.5） ・滅菌と消毒（1.0） 講師：仲井培雄（医師）
11:50～12:50	5 健康状態の把握1 ・身体・精神の健康（1.0） 講師：田中志子（医師）
13:40～15:40	5 健康状態の把握2・3 ・健康状態を知る項目（バイタルサインなど）（1.5） ・急変状態について（0.5） 講師：田中志子（医師）
15:50～17:20	6 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論1 ・呼吸のしくみとはたらき（1.5） 講師：高野喜久雄（医師）
17:30～18:30	6 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論2 ・いつもと違う呼吸状態（1.0） 講師：高野喜久雄（医師）

平成26年5月26日(月)

9:00~10:30	6 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 5・6 ・子どもの吸引について(1.0) ・吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意(0.5) 講師:加藤ひとみ(看護師)
10:40~11:40	6 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 7 ・呼吸器系の感染と予防(吸引と関連して)(1.0) 講師:加藤ひとみ(看護師)
11:50~12:50	6 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 8 ・喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認(1.0) 講師:増田明美(看護師)
13:40~15:40	6 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 9 ・急変・事故発生時の対応と事前対策(2.0) 講師:増田明美(看護師)
15:50~16:50	7 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 1 ・喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持(1.0) 講師:川戸美智子(看護師)
17:00~18:30	7 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 2 ・吸引の技術と留意点①(1.5) 講師:川戸美智子(看護師)

平成26年5月27日(火)

9:00~10:30	7 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 2 ・吸引の技術と留意点②(1.5) 講師:川戸美智子(看護師)
10:40~12:40	7 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 2 ・吸引の技術と留意点③(2.0) 一連の手順と評価 講師:川戸美智子、脇山千鶴(看護師)
13:30~14:30	7 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 3 ・喀痰吸引にともなうケア(1.0) 講師:佐々木淳(看護師)
14:40~15:40	7 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 4 ・報告および記録(1.0) 講師:佐々木淳(看護師)
15:50~16:50	6 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 3 ・喀痰吸引とは(1.0) 講師:進藤晃(医師)
17:00~19:00	6 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 4 ・人工呼吸器と吸引(2.0) 講師:進藤晃(医師)

平成26年5月28日(水)

9:00~10:30	8 高齢者および障害児・者の経管栄養概論1 ・消化器系のしくみとはたらき(1.5) 講師:木田雅彦(医師)
10:40~12:40	8 高齢者および障害児・者の経管栄養概論2・3 ・消化・吸収とよくある消化器の症状(1.0) ・経管栄養とは(1.0) 講師:木田雅彦(医師)
13:30~14:30	8 高齢者および障害児・者の経管栄養概論4 ・注入する内容に関する知識(1.0) 講師:木田雅彦(医師)
14:40~15:40	8 高齢者および障害児・者の経管栄養概論5 ・経管栄養実施上の留意点(1.0) 講師:藤井教子(看護師)
15:50~16:50	8 高齢者および障害児・者の経管栄養概論6 ・子どもの経管栄養について(1.0) 講師:有賀成子(看護師)
17:00~18:30	8 高齢者および障害児・者の経管栄養概論7・8 ・経管栄養に関係する感染と予防(1.0) ・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意(0.5) 講師:関美智代(看護師)

平成26年5月29日(木)

9:00~11:00	8 高齢者および障害児・者の経管栄養概論9・10 ・経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認(1.0) ・急変・事故発生時の対応と事前対策(1.0) 講師:石坂洋子(看護師)
11:10~12:10	9 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説1(1.0) ・経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 講師:脇山千鶴(看護師)
13:00~14:30	9 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説2 ・経管栄養の技術と留意点①(1.5) 講師:脇山千鶴(看護師)
14:40~16:10	9 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説2 ・経管栄養の技術と留意点②(1.5) 講師:脇山千鶴(看護師)
16:20~18:20	9 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説2 ・経管栄養の技術と留意点③(2.0) 一連の手順と評価 講師:脇山千鶴、渡邊幸子(看護師)

平成26年5月30日（金）

9:00～10:00	9 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説3 ・経管栄養に必要なケア（1.0） 講師：渡邊幸子（看護師）
10:10～11:10	9 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説4 ・報告および記録（1.0） 講師：渡邊幸子（看護師）
11:45～12:45	筆記試験
13:35～14:00	演習オリエンテーション
14:00～16:00	AED救急蘇生法演習・評価 講師：日本光電工業(株)
16:00	筆記試験 採点結果発表

平成26年6月12日（木）

13:00～18:00	シミュレータ演習・評価 喀痰吸引：口腔内吸引、鼻腔内吸引、気管カニューレ内部吸引 経管栄養：胃ろうまたは腸ろう、経鼻経管栄養
-------------	--

平成26年6月13日（金）

9:00～12:30	シミュレータ演習・評価 喀痰吸引：口腔内吸引、鼻腔内吸引、気管カニューレ内部吸引 経管栄養：胃ろうまたは腸ろう、経鼻経管栄養
13:30～16:00	シミュレータ演習・評価 喀痰吸引：口腔内吸引、鼻腔内吸引、気管カニューレ内部吸引 経管栄養：胃ろうまたは腸ろう、経鼻経管栄養

2-2. 第3回東京会場アンケート結果

平成26年5月24日【1日目】

講義 I 保健医療制度とチーム医療 富家隆樹
大切なポイントを簡潔に教えていただき、とてもわかりやすかったです。
介護職員も行う機会が多いので、吸引の仕方はとても勉強になりました。PEGの挿入のビデオもなかなか見ることができないので良かったです。
ヒヤリハット・アクシデントの報告の大切さ、医行為の説明などわかりやすく教えていただきました。チーム医療と介護職員との連携を大事にし、心がけるようにしていきたいと思っています。ヘルプマンの本を読みたいです。
患者・利用者にとってより良い医療・介護を提供していく上で、それぞれの専門分野を個々に発揮するのではなく、チームとして提供していくことが一番の方法であることがとてもよくわかりました。吸引ひとつ間違えれば人の命に関わることなので、勉強をしっかり行っていきたいと思えます。
とても聞きやすく、理解できました。今後自分が行う医行為について考えることができ、とても充実した学びとなりました。
大事な部分を的確に説明して下さったので、受講しやすかったです。VTRも用意していただき、より知識を深めることができました。
漫画を用いた講義はとてもわかりやすく、面白かったです。難しい内容でも興味を持てるきっかけとなりました。
多様な講義内容でした。講義項目の説明が多いため、資料のページを確認しながらの講義でした。受講に不慣れなため、先生の話の追いかけてながらの勉強となり、今後はもっと学習慣れをしていけるように努力したいと思います。喀痰吸引・経管栄養の研修が今後必要になっていくことが理解できました。
胃ろう造設と気管カニューレ造設のビデオが見れて良かった。チーム医療で2025年までに医療から介護までのスムーズな流れを作り、地域で国民皆を見ていくことや、吸引等は医行為であること、実質的違法性阻却論などについて理解できた。
今まで知ることがなかったPEGなどの実際の取り付け方を知ることができました。
DVDなどはとても良かったです。ヘルプマンは知らなかったなので、読んでみたいです。

医行為を行うためには、決められたことをしっかり行うことが重要だとわかりました。
聞きやすく、とても興味を持って聞かせていただきました。
ヘルプマンを見せていただけるとは思いませんでしたが、私もヘルプマンのような介護士でありたいと思いました。
アイスブレイクなど今後発表する場で参考にさせていただこうと思います。
大切なことを何度も繰り返し説明していただいたので、安心しました。
要点がとてもわかりやすくて良かった。ヒヤリハットなどの話し合いはもちろん、他職種との連携をもっと幅広く活用していきたい。
最後の「ヘルプマン」のお話もとても良かったです。介護者として煮詰まる時が多く、ハッとさせられました。
パワーポイントのスライドをかなり飛ばしていたので、スライドの内容・流れがよくわからなかった。
資料やビデオを使用しての講義は、とてもわかりやすく学ぶことができた。講義内容もしっかりとまとまっていて良かった。
制度や法律など難しい範囲だったが、重要な所をまとめて説明してくれてわかりやすかった。
介護職員が吸引などを行うにあたり、チーム医療がなくてはならない大切なものであることを学びました。身体拘束・徘徊の話も改めて考えさせられました。
胃ろうなどの手術の映像を見て、私はそういった映像が苦手だったのでびっくりしました。
医行為の意味を学べて良かったです。ヒヤリハット、アクシデント報告を各意味もよく理解できました。
ヘルプマンの漫画をぜひ読んでみたいと思いました。百ちゃんを見て、改めて介護士という仕事の大切さと誇らしさを感じました。また、自分の介護のやり方を考え直そうと思いました。喀痰吸引はビデオや現場では見ているものの、実際に自分も行うのだと思うとドキドキしました。
「制度の話はつまらない」と先生も仰っていましたが、簡潔にしようとされていたので、重要なところは頭に入ったのではないかと考えています。
講義の間にビデオを挟んだりされていて、メリハリのある内容で良かったと思います。
ヒヤリハットが事故の再発予防につながるという意識が今まであまりなかったので、勉強になりました。
重要な部分をピックアップしてくれたので、とてもわかりやすかったです。
「ヒヤリハットは財産だ」と改めて教えていただいた。わかっていても始末書のようなイメージを持ってしまうので、今後は改めていきたい。現在の法律では吸引を介護職員がすることはできないと聞いて勉強になった。
痰の吸引について自分はよくわかってなかったの、何も知らなかったのですが、先生の講義を聞いて理解することができました。
このような研修でヘルプマンの話題が出ると思わなかったの、とても良かったです。

講義Ⅱ 人間と社会 桑名斉
専門用語も1つ1つ説明があり、色々な例など出ていて丁寧でわかりやすかったです。
コミュニケーションは現場にとって非常に大切なことで、話好きなスタッフは多いが、本当にその人にとってその人が望むことを実践できる人は少ないので、伝えたいと思います。
介護に関わる人間として、利用者の方々とのどのように向き合っていけば良いのかを改めて認識することができました。
コミュニケーション技術を学んで、実際に改めて現場で行っていければと思いました。コミュニケーションの仕方で相手への関わり方も変わってくるものなのだと感じました。
平穏死について初めて知りました。もっと勉強してみたいと思いました。自分の家族や利用者が望む死に方にしてあげられたら良いと思いますが、なかなか難しいと思います。明日からオウム返しの実行してみたいです。
患者・利用者のためのケアを考えることはとても難しいです。やりすぎても、やらずすぎても、その人のためにはならないので、平等なケアを心掛けながら、個々の表情や行動を見極めながらケアを行っていけたらと思います。
先生ご自身の体験を交えての話が具体的に考えられました。利用者の言葉の奥を読み解き、本当に望む生き方の手助けができる介護士でありたいと思いました。
自己決定の能力について本人からの意向をどのようにして汲み取ることができるか、利用者とのコミュニケーションや家族の意向も踏まえ、確認が難しい。本人の希望・意思はどうか、自己決定の尊重のためにもコミュニケーション能力は柔軟性を持って当たることを学んだ。
コミュニケーション技術を再確認することができました。
今までの自分を振り返ると、入居者本人の気持ちは聞いたつもりでいて、家族の気持ちのみに応えていたところもあったのでは、と思います。この研修を機に自身を振り返り、「聞いたつもり」ではなく、「聞く自分」になりたいと思うことができました。
個人の尊厳と自立は大切な部分であると思うので、とても参考になりました。
サービスを提供するにあたって、利用者やその家族の気持ちを汲み取り、支援することが大切だと思いました。
「サービスは苦痛に焦点が当てられている」など、新しいことを学びました。
難しいお話でしたが、医療ケアサービスについてわかりやすく理解ができました。
利用者に家族がいない場合、誰に意向を確認すれば良いのか疑問に思いました。
利用者の立場・視点に立って、丁寧に説明していただくととても良かったです。

入居情報を把握し、本人の意向に基づき、ケアしていくことが大事であることがよく理解できました。そして入居者の更なる情報収集のためのコミュニケーションの必要性とチームアプローチの重要性、スキルを身に付けることが大事だとわかりました。
介護をすることに自分自身、事務的になりかけていることを感じた。個人の尊厳・利用者の気持ち・何をして欲しいのか、ただ話を聞くだけでなく、本人の希望や気持ちに沿った介護を心掛けようと思った。
現場に携わる上で、とても大切なことを学んだ。今後、サービス等を提供する中で、これらのことを活かしていきたい。
講義の内容は基本的なことですが、難しい内容であり、忘れがちなことだったので、初心を振り返ることができました。
利用者と接している時、きちんとコミュニケーションをしているか改めて見直しことができました。利用者との接し、より良いコミュニケーションを取り、痛みや不安などを言えるような人間関係を作っていきたいと思います。利用者について情報を知るために他職種との連携を忘れずにしていきたいと思います。
わかりやすい話し方で聞きやすかったです。コミュニケーションは介護だけでなく、日常生活でも使用でき、必要なことなので、上手く活用できたら良いなと思います。
色々なところで何度も聞いたことのある話ですが、やはり一番難しい問題だなと思います。疎かにならないように、いつも考えていきたいです。
「倫理」についてわかりやすく説明され、利用者・患者への最善の利益について、常に連携が必要ということを確認しました。
資料がコンパクトにまとまっていて、見やすく・理解しやすいので、復習するのにとても良さそうです。また先生の穏やかな感じが「人間と社会」の内容を一層わかりやすくして下さっていて良かったです。
ご自身の体験を交えた講義で興味深く拝聴いたしました。私にも高齢の両親がいるので、これからの指針になることと思います。
認知症の方にとっての自己決定権はとても難しいことだと思いました。
倫理の部分は難しかったですが、「人間と社会」について色々と考えさせられました。
コミュニケーションは大事なことだが、難しいことだと感じた。
宮沢賢治の「雨にも負けず」を読んで感動しました。認知症の方の思いはその方しかわからないので、今後も気を付けていきたいです。
対象者の訴えや家族の想いに共感することを基にしたコミュニケーションとして、私自身バリデーション技法を心掛けて携わっているため、共通した内容のアプローチだと感じた。
患者の尊厳、患者主体の医療など頭では理解していてもどうしても自分達の考えのみ優先していたと思います。

講義Ⅲ 安全な療養生活 1 藤崎剛斎
ヒヤリハットのある意味などを改めて理解することができました。グループワークで自分が考えもしなかったような意見が沢山あり、とても勉強になりました。
グループワークを通して様々なリスクの原因が考えられた。どのようにしたらリスクを軽減できるか考えていきたい。
医行為に対する認識とリスクマネジメントについて、よく学ばせていただきました。
グループワークを行い、日常で起こりそうな出来事ばかりで、事例を通して「現場で注意しなければ」という危機感を持って常日頃から関わっていかなければいけないと感じました。
ヒヤリハット・アクシデント報告は予防対策・事故対策のために必要であることを学んだ。
グループワークを行って、他の施設・病院でのヒヤリハット対策などについて意見交換ができて勉強になりました。
グループワークで他院の介護士の考えや視点などを知れ、同感できたことが大きな収穫となり、自分達がやっていたことは間違っていないんだと再確認できる機会になりました。「人命が最優先」という言葉を心に刻みます。
ヒヤリハットの書き方、事例を読み解いていく作業が面白かったです。
インシデント・アクシデント報告は病院でも書いているが、色々な方の考え方や意見が聞けて良かった。
講義を通して経管栄養の必要性を学び、安全に安心して吸引・経管栄養ができるようになりたいと思います。ヒヤリハット・アクシデントについての対応なども、グループワークで勉強することで、より良い対策ができることも再確認できました。
事故などを起こさないよう、危機感を持って仕事をしなければならないと思う講義でした。
グループワークが楽しくできて良かったです。色々な人の意見を聞くことは勉強になりました。
人と関わるといふこと、命に関わるといふことに怖さは常にあり、仕事に慣れることでこの気持ちが薄れてしまっていることがあります。怖さも大切に、知識と技術を身に付け、自分自身を磨いていきたいです。
ヒヤリハット・アクシデントレポートの大切さを理解することができました。
グループワークでは、皆さんの意見が聞けて良かったと思います。安全に行うためにリスクマネジメントは大切だと思いました。
グループワークでの話し合いはとても勉強になった。ヒヤリハットなど多くの分野も参考になった。
グループワークでは1つの意見から多くの対策案が出され、自分だけでは思いつかない発想もあり、有意義だった。

リスクマネジメントについて考えました。経管栄養の方法について詳しく知ることができて良かったです。
医療行為に携わることの主旨、そして技術の重要性が理解できました。また、インシデント・アクシデントの意味、リスクマネジメントの必要性についても安全・安心に生活していただくために大事であると理解しました。
ヒヤリハットのディスカッションがあり、色々な意見が聞けて良かった。グループで話し合い、コミュニケーションが取れて良かった。
初めてのグループ討議でしたが、皆で話し合うことができ、良かったです。
グループで事例について話し合って、自分が考えていなかった考えが聞けて良かったです。
ヒヤリハット・アクシデント報告の重要性がよくわかりました。グループワークがあり、皆の意見を聞くことで学ぶことが沢山ありました。
グループで意見を出し合って話し合うのが楽しくできました。自分では思いつかなかったことも沢山聞けて、これからの職場で活かそうだなと思いました。
テキストの文がよくわからない所もありましたが、プリントが簡潔で良かったです。グループワークも楽しかったです。
グループワークをすることで、他者のあらゆる角度からの意見を伺うことができ、大変勉強になりました。
資料で難しい内容を「テキストのどこの内容とリンクしているか」と補足していただき、説明も理解しやすかったです。また、事例を取り入れたグループワークも研修内容を理解する上で有意義でした。
グループに分かれて「ヒヤリハット・アクシデント報告・意見の出し合い・他のグループの発表」など色々な意見や内容が聞けて勉強になることが多かったです。
インシデント・アクシデントは介護医療のスキルアップにつながると思います。
他の施設の方の意見が出て、勉強になった。老健や病院勤務だと胃ろう患者がいるので、事例もイメージしやすいのだろうと思った。
グループワークにて話し合い、意見を出し合うことにより、様々な意見を聞くことができました。他病院や施設での取り組みについて知ることができました。
ヒヤリハットの報告がしっかりとできていない時があったと思います。グループワークで行った時のようなことがないように取り組んでいきたいと思います。

講義Ⅳ 安全な療養生活 2 榊原麻希

AEDを使用したことがなかったため、とてもわかりやすく勉強になりました。病院併設のため、実施する機会もなかなかないため、とても良かったです。
AEDの研修や使い方の勉強は何度か行っていますが、実際にそういった場面に携わることが少ないので普段から練習やイメージしておくことは大切だと感じました。
AEDの使い方を久しぶりに練習しました。相手に合わせた対応をこれからも考えていきたいと思います。
AEDの使い方がとても勉強になりました。心肺蘇生は周りの人達とのロールプレイが難しかったです。確認表のチェックも戸惑いながらチェックしていました。
救命処置について、自分のできることについて深く考えることができた。
とても丁寧に教えて下さり、わかりやすかったです。AEDは何回教わっても、その場面に会った時に慌ててしまいます。何回も練習したいと思います。
明るくはきはきして聞いてやすかったです。AEDについて再学習できて良かったです。
救急蘇生について講義を通してAEDを使用した救急対応を学び、グループワークを通して適切に対応できるよう、今後も勉強していきたいと思います。
AED・心肺蘇生の体験ができて良かったです。
最近訓練をしていなかったので復習になったが、体力が必要だと思った。
施設内に設置しているAEDを再確認し、自分だけでなく他の職員にも伝えて、「他人を救おうとする社会が自分を救う」という意識を持った環境を作っていきたいと思います。
実際にAEDを使用し、ガーゼ交換などもあり、わかりやすかったです。
実際に人形を使用しながら行えたことが良かったです。救急の必要性和重要性をわかりやすく理解できました。
日常でも役に立つことなので楽しく学びました。また、とてもわかりやすかったです。
シミュレーションでグループワークを行ったが、実技効果確認表の評価が判断しにくかった。人形があるとやりやすかったと思う。
見学後に実際にやってみると、手順が違っていたり、手際が悪かったり、冷静になれなかったりしました。普段から救命について心構えを意識しなければならないと感じた。
施設では喉に物を詰まらせることが多いので、そのデモもして欲しかったと思います。
実技演習があつてわかりやすく、大変さがわかった。常に声かけが必要で、チームワークが重要だと知った。
応急手当により、手遅れにならないよう処置することを学べた。もう少し人形を使用し、実際にAEDの使用シミュレーションを行えたら良かったが、見学でも理解できた。
救急蘇生について、AEDグループ演習やシナリオトレーニングを含め、学ぶことができた。今後も安全に行ってい

たいと思う。
胸骨圧迫やスピードなど、今まで曖昧な知識を持っていたが、正しい知識が身に付き、研修が終わっても読み返したいと思った。
救急蘇生の仕方が演習でも頭が白くなってしまい、次に何をするか忘れてしまいました。いざという時にきちんとできるよう、学習を行っていききたいと思います。
1つ1つの説明が細かく、わかるまで説明していただけるため、とてもわかりやすく、多くのことを得ることができました。
実施を交えながらの講義になり、より良い体験ができました。また、説明もとても丁寧で聞きやすかったです。
緊急時は慌ててできないので、日頃から練習が必要だと思った。道端で使用した AED はどうすれば良いのでしょうか。
普段 AED など知っていましたが、初めて知ることが多く、驚きました。
救急蘇生は仕事でもプライベートでもやることもあるかもしれないので、スムーズに行えるように覚えて、いつかのために備えて実践していききたいと思います。
救急蘇生の方法を再確認できて良かったです。今回学んだ内容を今後の現場で活かしていきたいと思っています。
AED は人間で行ったためやりづらかった。演習までにきちんとマスターしたいと思います。
いつも思いますが、やる度に AED の形が変わっている気がします。やはり恥ずかしさが先立ちますが、グループの方が良い方ばかりなので、面白かったです。わかりやすい内容なので、よく理解できたと思います。
実際に AED を使用したり、グループでロールプレイすることで、スムーズに理解することができました。
実技講習も踏まえて講義していただけたので、大変有意義でした。事例などもあり、様々な状況を考えて実技ができて良かったです。
先生の話が聞きやすく、わかりやすかった。シミュレーションは人形なしではやりにくかったが、AED の使い方がよくわかったので良かった。
人形を使ったシミュレーションでわかりやすく、救急のために大事な手順などが理解できました。
AED のシナリオトレーニングは、体で覚えることが大事だと思うので、良い勉強になりました。また、他施設の方とも交流を持てて良かったと思います。
AED の使い方がよくわかった。高齢者に心臓マッサージを行うのは難しいと思った。
職場が病院・老健ということもあり、院内で消防署の担当者を交えての実施訓練をすることがあります。知識・技術を再認識する良い機会となりました。
AED の使い方や救急蘇生は何回かやったことがありますが、いざ使ってみると今ひとつ理解していなかったりするので、今後とも気を付けたいです。

平成 26 年 5 月 25 日【2 日目】

講義 I 清潔保持と感染予防 1・2 仲井培雄
感染に関わることをしているため、基礎を 1 から学ぶことができ、とても勉強になりました。「手の平・手の甲・爪・指の間・親指・手首」をこれから実践していききたいと思います。
気管カニューレの喀痰吸引の清拭と不潔の意識は普段気を付けているようでも、滅菌の物は使わないため、手順を間違えてしまいそうなので、意識して取り組み、習得していききたいと思います。
感染について学び、手洗いの仕方を知り、手首まで洗うことに感心しました。現場でも正しい手洗いの方法を指導し、役立てていければ良いと思います。
わかりやすい説明でした。手に触れた所や物は不潔と考え、注意しながら業務に入りたいと思います。
患者・利用者・自分の身を守るためにも、感染予防が大切であると学びました。
感染予防や自分自身を守るためにも、清潔保持は必須であり、徹底しなければならないことだと思いました。
徹底された感染予防対策を学ぶことができ、職場の人にも教えてあげたいと思いました。マスクの付け方、手袋の外し方はとても勉強になりました。
吸引の手技が各病院で色々とあり、頭の中が混乱してしまいました。とにかく清潔と不潔はしっかりやらなければと思いました。
演習のような時間があり、楽しくできました。自分の勤務している病院もノロセットや、環境整備をする時、ノロ対策時にはピューラックスを使用し、その他の時は環境クロスを使用しています。
PPE の着脱手順は、ゴーグルが入ってくるとわからなくなってしまうので、今回聞くことができて良かったです。
感染予防は普段行っているものの、いつのまにか予防対策が自分のやり方になっていたため、安全と正しい知識を再確認できました。今後医療行為の手伝いをするにあたり、よく学びたいと思います。
施設内で感染予防などの研修を行った上での今回の講義だったので、振り返りができ、不足している所を考えることができました。施設へ帰り、改善していききたいと思います。
感染予防（手洗い・うがい等）を施設全体でもう一度確認していききたいと思います。
感染予防の意義をしっかりと確認することができて良かった。日々の業務に向かう気持ちが変わってきます。
感染予防と方法、「一介助、一消毒」を徹底することと、感染を広げないためにも、清潔保持が大事であると理解した。
手洗い・消毒と特に施設内で活用できると思いました。吸引の器具について、実際に行ってみないと混乱してしまい

そうだと思います。演習の際、しっかりと学習したいと思います。
写真での説明や実演があったので、わかりやすかったです。また、病院での例や理解しやすい言葉があって良かったです。
普段行っている手洗い方法など、再確認することができた。消毒法も大丈夫と書いていても手順や時間を確認し、身につけることをしていきたい。
基本的な内容だったが、再確認することができた。施設に戻っても、マニュアルを再確認したいと思う。
注意点をわかりやすく強調して説明していただいたため、気を付けなければいけない所をしっかりと学ぶことができました。
マスク・手袋をきちんと行っているつもりでしたが、少しずつ違って再確認できた。
普段自分が仕事をしている中で、とても汚い菌に包まれたまま生活していたんだなと実感しました。わかっていると思っていた手袋の取り外し方なども違い、驚くことばかりでした。
清潔保持は喀痰吸引をする上でかなり大切なことで、普段から気にしていかなければいけないため、より注意して見ていこうと思いました。
身近で必要なものなので、わかりやすかったです。使い捨てのエプロンを施設でも使いたいなと思いました。
普段気を付けていることでも、不潔・清潔を常に意識して対応すべきと実感しました。先生のお話はハキハキされていて、わかりやすかったです。施設を挙げて予防対策を徹底しなければいけないと再認識しました。
感染の恐ろしさがよく理解できました。
いかに手洗い・うがい・清潔保持・感染予防が大事であるかなど、内容がわかりやすかったです。
業務に活かせる内容で興味深く拝聴しました。実際に行ってみると、頭ではわかっている、気持ち急いで難しく思いました。
次亜塩素酸の注意点など改めて理解できた。普段使用しているものだが、あまり扱いに注意したことがなかった。
物品を使った説明がわかりやすかった。
どんな時にどんな手洗いや対策をするのか詳しい説明があったのでわかりやすかった。
当院においても手消毒と手洗いの徹底を推進しているが、まだまだ不十分なこともあり、今回の研修で学んだことを活かして、質の向上に繋がりたいと思います。
痰の吸引を行う時に、手袋や清潔なものの着脱順など覚える順番があり、以前まであまり気を使っていなかったと思います。次回からは清潔を気にしながら行っていきたいです。

講義Ⅱ 清潔保持と感染予防3・4 仲井培雄
何が清潔で何が不潔なのかがとてもわかりやすかったです。実技は難しかったです、とても勉強になりました。
感染予防は仕事に限らず、自分の身を守るためや入居者の安全を守るためにも、常に意識して努めていきたいと思えます。
ノロウィルスの対応がすぐできるよう、手順や準備など職場に活かしたいと思えます。
不潔・清潔・手順を間違わないようにすることは当たり前ですが、しっかり守っていかなければいけないと思いました。
不潔・清潔の考え方をもう少し学ばないと、しっかり理解するのは難しいと感じました。実技も体験できたのは良かったです。
急遽の変更でしたが、吸引具の装着手順を学ばせていただき、良い機会をいただけて嬉しいです。チームで実演できたのは良い勉強になりました。
グループワークを行いながら、カテーテルの扱いに戸惑いながら実施できて良かったです。
滅菌手袋、吸引チューブを吸引器のチューブに繋ぐ動作が実際行ってみると難しかったです。
清潔・不潔は理解できても、実際に行ってみるとわからなくなってしまいました。
清潔に気を付け、不潔の部分としっかりと分けて行っていくことの大切さを学ぶことができました。慌ててしまう場面も起こると思いますが、何事にも「清潔」という意識を持ち、身に付けていきたいと思えます。
吸引チューブの装着の仕方など、やってみて清潔・不潔を区別することは大切であると思えました。
カテーテルの取扱い方を実際に行うことにより、頭ではわかっている、実際にやってみるとは違い、正しい取扱いがわかって良かった。
滅菌手袋とチューブの使い方がとてもためになった。
消毒方法・用途・清潔と不潔の区別などについて、理解できた。
吸引器の使用について、頭で理解することができた。練習をし、しっかりと行えるようにしたいと思えました。
演習で一度説明した後、各自で実習を行い、再度説明があったので理解が深まった。
学んだことを実際に行ってみると手順がわからず、実際に行ってみて理解することができて良かった。施設の看護師がどのように行っているかを職場に戻ったら見て学びたいと思う。
実技を交えた上での講義は学ぶことが多かった。今回の学びを活かし、現場で携わっていききたいと思う。
清潔・不潔の区別が思ったより難しいと感じた。
実習の時間を設けて下さったおかげで、教え合いきちんと理解することができました。

手が荒れやすい体質ですが、消毒液が手に沁みなくてとても良かったです。当施設でも使用したいと思いました。実際にチューブを装着してみて、演習を行うのがどうなるか気になりました。
実際に行うにあたり疑問もあったので、清潔不潔の実施をできて助かりました。また、質問ですが、当施設では排泄介助時に使い捨てでないエプロンを使用しています。毎日洗って使っていますが、これは大丈夫なのでしょう。
演習ができて良かったです。手順を練習しようと思います。
実際に物品に触ることで、聞くだけよりもしっかりと頭に入ったように思います。
基本的な吸引に関する技術と、各施設や病院で行っている方法は異なるものだとわかって勉強になりました。
実際に行ってみて不潔と清潔に対して気付いたり感じるが多かったです。
家庭でも職場でも日々の生活に役立つ内容でした。消毒液剤や方法など、今一度見直して適切に対応できるよう心がけたいと思います。
実習が難しかった。清潔・不潔をきちんと分けることに慣れることが大事だと思った。
清潔・不潔の違いがよく理解できました。しっかりと見極めていきたいと思います。
清潔はとても大事なことだが、つつい気せずに業務を進めてしまうことがあった。今後気を付けていきたい。
実技では実際にやらないとわからないことがあり、勉強になった。
吸引時のチューブの取り付け方で、滅菌手袋では不潔なものを触ってはいけないことがわかった。
今年に入り、ノロウィルスが落ち着いた4月に季節外れの感染者があり、食事などの配膳・下膳の管理について、大変な思いをしました。今回の内容を活かしてケアの向上に努めていきたいと思います。
自分の病院では消毒・滅菌に対して十分ではないと思いました。帰ったら徹底したいと思います。
講義を聞いて、現場で不備な点があったので、帰ったら活かしたいと思いました。

講義Ⅲ 健康状態の把握1 田中志子
バイタルや日々の細かいケアの質を高めていくには、その人をどれくらい普段から知っているかが大切になってくるため、今回の研修で取り組めるところは確認して取り組み、入居者にとって良いケアに繋がられるようにしたい。
とても励まされ、介護士の必要性を認められたようで嬉しかったです。利用者を細かく観察し、伝える癖が大切だと思いました。
自分を育てるのは自分しかいないと感じ、頑張ろうという気持ちがより増えました。
大切なことを言ってもらえたり、教えていただき、介護士として嬉しく思い、励みになりました。
病院に戻ったらもう一度振り返りたいことも何点ありました。
高齢者がどのように生きてきたか、老化の特徴を私達が理解し、本人に合ったケアができなければならない。老化による機能低下を理解し、健康状態を把握していくことが大切だと思いました。
事例を取り入れたわかりやすい講義でした。
1人1人の健康・不健康の違いがあり、その人の「いつもの状態」を知ることの大切さを知りました。「いつも」を答えられるような関わりをしていきたいと思います。
先生の色々な実体験が入っていて楽しく授業を受けられました。
大切なことを何度も仰っていただくことで、重要だと感じ、頭に入ってきやすかった。話の膨らみが多く、色々な視点で感じられて良かった。
老化について、我が身と重ねながら興味深く考えさせられた。施設に戻っても参考になることばかりだった。
バイタルの正常値を再確認できたと同時に、正常値のみで考えず、各個人の平均値で見ることが大切とわかった。
皆で音読することで、内容が頭に入ってきやすく、想像しながら考えることができました。
日頃の観察が大切であることと、小さな変化があったら報告することも大事だと思った。もっと気にかけて接していきたいです。
高齢者の特徴など知識をすることができて良かったです。
健康や老化について、わかりやすい説明でした。
質問や音読を入れた講義で楽しんで聞くことができました。
利用者の様々なことを思い出して、笑える所もありました。いつもなんとなくやっていたことが大事だと仰っていただき、お世辞でも嬉しかったです。
興味深く集中できるわかりやすい講義でした。いつもと何が違うのか、自分はしっかり伝えられるようにトレーニングしたいと思います。
老化や健康状態の対応の方法など、内容がわかりやすかったです。
年齢によって健康のバロメーターが違うことを改めて知らされた気がします。ご自身の体験などもお話いただき、楽しく拝聴させていただきました。
普段の仕事でもっと利用者の状態をよく見ようと思った。老化は誰にでも来るものであるため、個人差もあるが大事だと思った。
健康状態は人それぞれ違うことを初めて知ることができた。
人それぞれによって健康状態は異なることを学んだ。
病院で働いていますが、日常生活のケアはしていますが、細かな注意まではできていなかったと思いました。

講義Ⅳ 健康状態の把握 2・3 田中志子
ところどころチクチクと考えさせられるような所がありましたが、施設に帰ってから改めて皆と話し合いたいと思います。
普段何気なく思っていたことですが、改めて健康について考えていくことの大切さ、また私達と入居者では健康状態も違うため、常に観察してその人の健康はどういうことなのか常に考えて接していきたい。
先生の熱い授業はとても楽しかったです。支援する気持ち、その人1人1人の思いをどれだけ共感して支援できるかなど、改めて今後の支援するにあたって考えさせられました。「自分がされて嬉しい介護」「笑顔ある介護」を忘れずに変わらず行っていきます。
急変時の対応はいつあっても、落ち着いて行動するのが難しいので、何度もシミュレーションするように努めます。
大事なポイントに重点を置いて教えていただき、ありがとうございました。先生の言葉は私にとっても励みになりました。忘れずに頑張りたいと思います。
「高齢者の特徴から健康状態の把握をしていくこと」「活動向上による能力の向上」「個体差が大きい介護する側の確認が必要であること」などを学びました。
急変時の対応について、施設内ではまだまだ確立していないことがあるので、施設に戻った際にすぐ取りかかろうと思います。
現場で必要なことを面白く、わかりやすく理解できました。またお話を聞いてみたいと思う講義でした。
普段当たり前のようにやっていて、深く考えたことがなく、今回の講義でバイタルチェックの重要性を改めて認識できました。
私達が根本的にすべきこと、私達の存在の意義を再確認でき、モチベーションが上がりました。また、受講したいと思いました。
利用者の日常の状態をしっかりと把握して、変化を少しでも早く確認できるようにしっかりと行っていきたい。
急変の見分けは日頃の観察が必須であり、少しの変化を見逃さないことだと理解できました。とてもわかりやすく良かったです。
ケアとして「いつもと違う」を大切にすること、「気付き」を大切にすること、どれも利用者を強く思うことが大切だと思いましたが、今回先生の講義を受け、今後改めて強く意識しようと感じることができました。
テキストや資料を通して健康状態の把握ができた。今後、今回の学びを役立てたいと思う。
応急処置の心得が学べて良かったです。正常なバイタル値を知ることの大切さがよくわかりました。
施設に帰ってから「私達の所ではどうなのか確認する」という宿題ができました。
現場を思い出しながら考えることで、納得させられることが多く、高齢者の方への対応を再認識できました。
事例を挙げて説明していただいたので、イメージが湧き、実感が持てました。
介護職員が利用者の健康状態を把握することが大切で大事であることが深くわかりました。
講義がとても理解しやすく、楽しかったです。一人一人の日常での違いをしっかりと知ること、急変時の対応の仕方など理解できた。
すごくわかりやすく、楽しい講義でした。利用者の毎日の顔色で色々なことがわかると知ったので、職場に帰っても活かしていきます。
講義内容として例を挙げたり、実際にバイタルを行うなどすることで、わかりやすい講義でした。熱意が伝わる時間となり、重要な職種であることを再認識しました。
急変に立ち会ったことはありますが、バタバタしてしまい、ほとんど余裕がなかったです。夜勤で人がいなかったとはいえ、もう少し落ち着いて対応できるようにしたいです。

講義Ⅴ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 1 高野喜久雄
手を使った食道と気管の仕組みはとてもわかりやすかったです。
呼吸の仕組みは意外とわかっているようで、わかっていないことが多かったので、きちんと理解していきたい。
呼吸器の絵は上手に描けませんでした。
「気管と食道を描きなさい」と出題され、自分が全く理解できていなかったことに気づくことができました。大切なことなので、覚えたいと思います。
呼吸器の働きについてわかりやすく講義していただきました。医学的な学習に慣れていない私達にもわかりやすく説明していただきました。
呼吸器の絵はとても難しかったです。
当たり前に行っている呼吸について、器官の仕組みと働きについて知ることができた。
大事な所を何度も説明して下さったので、大事な内容がわかりやすかった。時々、違う内容を話されるのも、楽しくて好きでした。
食事の時に大事なこと、呼吸器の働きについてわかりやすかった。
呼吸の仕組みを絵にしたが、仕組みはわかっているつもりでも、絵に書くと正しい場所がわからなかったが、絵にす

ることで呼吸の仕組みを知るのにわかりやすかった。
講義の内容は実際に図に書くことによって復習できた。基本的なことから再確認していきたい。
呼吸する・食べ物を食べるための流れの絵を書きましたが、よく書けませんでした。食堂と気管の位置や喉頭の位置が理解できて良かったです。
「食物の通り道」と「空気の通り道」を覚えておかないといけないと思いました。
口から胃までの絵を書きましたが、思ったより全然書けなかったです。
呼吸の仕組みの難しさを感じました。呼吸の正常な働きは換気とガス交換が適切に行われることで維持されると知りました。
肺の絵を近い所まで書けたので良かった。ピストルの形が鼻・喉の図の作成に役立つことを知ることができました。
驚きの画力ですみませんでした。「食事時、知らない間に気道に食物が入っていることがある」というビデオを見たことがあるので、特に注意していきたいと思います。
身体のメカニズムをわかりやすく説明して下さいました。わかっているようでわからないことは沢山あります。まだまだ学ぶことが多そうです。
呼吸器の絵が書けなかった。わかっていたつもりが、きちんと理解できていなかったんだと思った。基本のことなのでしっかり覚えたい。
食べ物を食べる絵がまったく書けなかった。イメージだけでなく、しっかり知識を身に付けたい。
空気の流れを絵に書くのは難しかったが、流れが理解できた。
気管と食道の位置を忘れてしまっていた。もう一回講義を聞いてわかりました。

講義VI 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論2 高野喜久雄
呼吸状態を確認することは大切なので、日々の観察をきちんとしていきたいと思います。
血圧計の話がためになりました。利用者の呼吸に気をつけて観察し、業務にあたります。
食道で飲み込んでいくことや、呼吸との絡みをもう少し学べたらもっと良かった。
「呼吸において苦しいという訴えがなくても、体の中で異変があると考えて良い」など広範囲に渡る講義でとてもためになりました。
呼吸においても、「いつもの状態」を知ることが大切であり、血圧・体温・脈だけでなく、呼吸の状態にも注意して見ていくことの重要性を再認識することができました。
違う呼吸状態を観察する点を再認識できたので、現場で活用していきたいです。
日頃から通常の呼吸を知り、異常呼吸を速やかに判断し、対処しなければならぬと痛感しました。息苦しさを訴える入居者に対する対応の仕方や、看護師や医師への連絡も重要だと学びました。
「真実か嘘かを常に考える」という言葉は、今後意識していきたいと思いました。
呼吸について、様々なことを学んだ。主な疾患等を含め、しっかりと覚えたいと思う。
食事と呼吸が咽頭でクロスして、それぞれに分かれていくことなどを明確に理解できました。
いつもと違う呼吸をしていないかを見ることの大切さを知りました。呼吸器の働きなどが重要だと学びました。
呼吸状態の変化をいち早く発見するために、いつもと違う呼吸状態かどうか観察していこうと思いました。
呼吸状態の回数が増えたり減ったりする、音の異常を感じるか、呼吸の仕方、患者の苦しさなど内容がわかりやすかったです。
呼吸の音やリズムによる色々な病気が理解できた。
実際に起きた事柄なども取り入れた講義だったので、身近に感じるすることができました。
「何が真実で何が真実でないか見抜く力を持たなきゃいけない」というお話が心に残りました。
いつもと違う呼吸状態や音など、職場に戻ったら気を付けて見ようと思います。
呼吸に関する種類や仕方について学んだ。昔学んだことをもう一度思い出しました。

平成26年5月26日【3日目】

講義I 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論5・6 加藤ひとみ
子供の吸引についてですが、吸引チューブの小ささに驚きました。普段は10Frや12Frくらいしか見ないので、それに比べると小ささが目立ちました。小児に関わることは少ないですが、良い勉強になりました。
子供の吸引と大人とでは器具の大きさが違い、より知識がないと入居者に不安を与えてしまうことを学んだ。きちんと声かけをしてから行うよう意識して行いたい。
吸引する時の気持ち、される時の気持ち、また利用者の家族の気持ちになって考えなければいけないことを改めて学ぶことができて良かったです。支援する中で、その人の気持ちに寄り添うことの大切さを痛感しました。
吸引の実施に関する説明・利用者や家族に理解して同意して貰うこと、協力して貰うの大事さと難しさを学びました。グループ発表も面白かったです。
利用者や家族の立場になって考えてみて、求められていることがよりわかりました。
新生児や乳幼児にも吸引が必要であるというケースを初めて知りました。それによってチューブの太さや圧も変わる

ことは覚えておきたいです。
事前の説明の大切さや「自分だったらここが気になる」と思う所はグループワークを通してほかの人も大体一緒だということがわかったので、利用者もそう感じていると思った。
吸引について実施される側の気持ちや家族への配慮など、自分自身がその立場に立って考えることを学ばせていただきました。
吸引する場合の「される側の不安」「家族の不安」についてのグループワークが良かった。
どのようなことも本人の立場や家族の立場になって考えると、自分の行動が変わると思いました。
訴えができない方の気持ちをつい忘れがちになってしまうので、声かけの必要性和、相手と家族の気持ちを汲み取ることの大切さを再認識することができました。
ガーゼ交換やチューブなどを実際に見せていただいて勉強になりました。
吸引を受ける側の気持ち、する側の気持ちの理解の大切さが講義を通じて強く感じられました。
とても聞きやすくて良かった。子供の吸引チューブを初めて見せていただいたが、すごく細くてびっくりした。
声かけの重要性（次回の吸引時に繋げる・嘘をつかないなど）をしっかりと確認できた。「何が不安か？」というグループワークで話し合ったことや、他のグループで出た内容など勉強になった。
気管カニューレの実物や気管カテーテルの種類を見せていただき、ありがとうございます。吸引行為を行う際は必ず説明をし、納得していただいて、きちんと声かけを行いながら施行しなければならないことを理解できました。
吸引の際、その他のケアもその人それぞれの立場に立つということを改めて意識することができました。
喀痰吸引には様々な種類があり、常に清潔に気を配る必要があると知った。また、自分が慣れたことで家族や本人に説明不足にならないことが大切だと忘れないうにしようと思いました。
施設にいるので吸引の対象が大人のみとっていました。子供の吸引については、大人に行く時よりも更に怖がらないように心のケアを行うことを忘れないうにしたい。また、吸引される本人や家族の気持ちになって考えることを知った。
吸入器の圧の調整、利用者に対する説明と信頼の重要性を理解できた。
カンファレンスを取り入れながらの講義で理解しやすかった。
小児に使用するチューブの細さに驚いた。いつでも患者・家族の気持ちを考えながら、ケアを行うことを確認できました。
自分が実施するうえで、一番大事な「自分がされたら」「自分が患者の家族だったら」ということを皆で考えることで、色々な気持ちを感じることができました。改めて「声かけ」の大事さを感じました
利用者・家族の気持ちを考えることができました。吸引をされる方は不安なので、声かけ・説明をし、少しでも不安を減らせるように気を付けたいと思います。
子供にとって吸引とは苦痛を伴い、怖いものであると、安心して貰えるような声かけの必要性がよくわかりました。
小児用のチューブの小ささに驚きました。あんなに細くてちゃんと痰が取れるのかなと思いました。
吸引される立場・その家族の立場として考えてみると、とても怖いのだろうと改めて深刻に感じました。吸引の必要な方への巡回の仕方を改めて考えてみようと思います。
実際に吸入をされる気持ちを考えることがなかったため、内容が良かった。家族だったらどう思うかも考えることができて良かった。
グループワークで自分や家族が吸引をされる立場になって考えることができて良かったです。
吸引をするだけでなく、吸引される側の立場からの話は新鮮で良かった。グループワークで色々な話し合いができて面白かった。
家族が吸引される時の不安をどのように対処すべきかがわかりやすかった。
メンタル面での学習、グループワークで色々な意見が出たのが良かったと思います。また、吸引の器具などを実際に見せていただきましたが、今ひとつピンとこなかったため、実際に演習しなければいけないと感じました。
喀痰吸引は利用者にとっても怖いことなので、不安にさせないための行動・態度をしっかりとしたい。
グループワークで色々な意見を聞くことができ、良かった。初めて乳幼児用の小さなチューブを見ることができた。
子供のチューブがすごく細く小さい物だと知った。グループワークで何に気を付けるかもわかった。
痰の吸引は相手に行くことばかり考えていました。患者やその家族がどういう風に思っているのかをしっかりと考えた

講義Ⅱ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 7 加藤ひとみ
チューブの長さや大きさは大人と子供では対処方法が全く異なることもあるので、十分に理解していきたい。
不潔と清潔は感染予防にもなるし、きちんとしなければいけないと思いました。現場で活かしていければと思います。周知することは必要だし、皆で話し合っていければと感じました。
吸引を行うことにより、リスクがともなうことがよくわかりました。
「自分が患者の立場だったら」「家族の立場になったら」ということがグループワークを通して沢山の意見が聞けて勉強になりました。
とても聞き取りやすかったです。自分が相手の立場に立ち、考えることを忘れてはいけないと思いました。

痰の性状で「こんな病気の疑いがある」という項目があるので、ただ痰を吸って異物感を取り除くだけでなく、注視する所が多いと思った。
人間としての思いを再確認しました。優しくありたいと思いました。
吸引器具についての説明や、扱いについて学ぶことができました。気管カニューレの対応など、今後実施していく内容の説明があり、心構えができました。
清潔と不潔をしっかりと区分して、これからの仕事に取り組んでいきたい。
呼吸器感染の予防や吸引にともなう予防の留意点、清潔と不潔の再確認ができ、勉強になった。
手を洗った・消毒したからといって、決して清潔であるとは限らないということが理解できました。
痰の状態の観察など、実際にケアを行う際は注意して臨まないといけないと思いました。
吸引を行うにあたって、感染を起ささないために清潔を守ること、ウィルスの侵入を防ぐことなど、手順や準備にも気を付けて行うようにしていこうと思った。
「清潔操作を行うことで、感染をさせない」というのはややこしいですが、頑張っって覚えようと思います。
正常な痰の量は1日100～200mlであると知りました。清潔と不潔をきちんと分けることの大切さを学びました。
気管カニューレの鼻腔口腔吸引の手順の違いを勉強しておきます。
実際に児童用の吸引カテーテルを見たことがなく、気管カニューレも見ることができて、勉強になりました。
生体防衛反応、痰の種類、清潔と不潔に沿って行う内容がわかりやすかったです。
吸引と関連した内容で良かったと思います。痰の種類により疾病がわかるのは参考になりました。また、器具の清潔・不潔にも気を付けたいと思います。
病気の種類によって痰の色や性状が違うことが理解できた。
何の介助をするにしても、本人・家族に説明をすることの大切さを改めて知ることができた。
清潔・不潔の考え方がなんとなくしかわかっていなかったのが、はっきりと理解することができて良かったです。
吸引前・吸引中・吸引後の感染予防のために、清潔にしておくことがとても大事だとわかった。
病院では看護師は当たり前のように行っているように見えても、実際は注意を払って行っているのだと思いました。

講義Ⅲ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 8 増田明美
吸入をする前にどのような危険があるのかをよく理解しておかないと、大事故に繋がってしまう恐れもあるので、きちんと理解して習得できるようにしたい。
喀痰吸引を行う際の注意点がとてもわかりやすく、楽しい講義でした。
吸引する前後の入居者の気持ちを理解した労いの言葉と声かけの大切さを改めて忘れずに支援する中で実施しなくてはいけないと思いました。
日頃の様子観察で注意する点がいっぱいあることが勉強できました。
急変時、慌てずに行動できるように頭の中に入れておきたいと思います。
とても聞きやすく、反復して説明して下さり、わかりやすかった。大切な部分がちゃんと伝わってきました。
吸引にともなう危険性、その時の対処方法を教えていただきました。様子に変化があった時はただちに止めるようにします。
吸引は実際に病院で看護師が行っているレベルよりも、少し低めなのだということがわかった。話も聞きやすく、わかりやすかった。
なぜ吸引が必要なのか、吸引によって痰の排出することが必要な時があり、その見極めを判断するための知識を学ぶことができました。
介護士のできる吸引の領域がわかりました。
危険があり、安全に施行するにあたって、事前準備の必要性を知りました。
吸引時のリスクと対応を学べて良かったです。
わかりやすく安全確認の必要性やリスクなど学べて、とても勉強になりました。
話が聞きやすく良かったですが、教えていただくほどに喀痰吸引は怖いと思いました。
喀痰吸引によることで生じる危険性、ヒヤリハットや吸引できる範囲など確認できて良かったです。
ヒヤリハットとアクシデントの違いと、わからない場合は看護師に確認することが大事だと理解した。普段の気付きがヒヤリハットに繋がると思った。
吸引時のトラブルに関して注意し、意識してケアに当たろうと思いました。
アクシデントの記入や、グループでの話し合いがあり、集中力が切れずに行えて良かった。事故での報告方法や緊急時の伝達方法など、理解できて良かった。
吸引をするにあたり、どのようなことが危険なのか、事故が起きた場合の報告書の書き方、介護士が行えることなど理解できた。
今後、いつもと違う変化に気付いていきたいと思う。
今までヒヤリハット報告書は書いていたが、吸入に関しての報告書は書いたことがなかったので、この講義の事例で書く機会を持って良かった。
インシデントとアクシデントについて詳しく知ることができました。

カンファレンスを交えながらの講義で理解しやすく良かったです。
ヒヤリハットは病院でも書きますが、頭でわかっているのに、言葉にすると難しいので、伝わるように書いていきたい。
喀痰吸引により生じる危険には沢山のできごとがあるのだとよくわかりました。
ヒヤリハットに対する意識がすごく低いなと自分で思いました。午後の講義の下、意識改革ができればと思います。
ヒヤリハットとアクシデントの違いがわかりやすかったです。
講義だけでは漠然としており、演習時に忘れてしまいそうです。ヒヤリハットとアクシデントのレポートは施設でも実施しており、それをもとに改善をしていくように努めております。
なぜ吸引が必要か、吸引する際の注意点などがわかった。
今まで吸引は見ているだけだったが、次に自分達が行う場合にどうすれば良いのかがわかった。

講義Ⅳ 高齢者の障害児・者の喀痰吸引概論 9 増田明美
初日の講義でもヒヤリハットをやりましたが、きちんとした報告の大切さが改めてわかりました。
利用者の状況をきちんと観察することでわかることもあるので、吸引を行う時は慌てずに行い、様子が変わったとすぐに吸引を止め、明確に報告することが大切だと感じました。
事例のグループワークを行い、吸引する際に慌ててしまい、奥まで深くチューブを入れてしまったり、痰が引けず時間をかけてしまったりと、現場でもありそうな事故なので、基礎が学べて良かったです。
看護師への報告は、明日からでも正しく報告できれば良いかなと思いました。
急変時の看護師への報告、利用者の様子を観察し、起こってしまったことをわかりやすく、手短かに報告することの重要性がわかりました。
実際に行った場合に起きる危険を用いたケースを考えながらだったので、イメージが沸くと共に緊張もしてきました。
実際にこれからやってみて急変など起こったら、その場を離れずに応援を呼ぶことを忘れないようにしようと思いました。
吸引を行うにあたり、アクシデントがあった場合は、正しく報告できるようにする。アクシデント報告をすることで、事故防止に繋がるとわかった。また、間違った吸引は行わないように注意する。
報告の重要性を再確認できました。報告・連絡・相談を徹底していきます。
ヒヤリハット・アクシデントの報告書の書き方、報告の重要性などとてもわかりやすかったです。
ヒヤリハットおよびアクシデントの報告について普段から書いていますが、今回の講義で学んでみて、意外としっかりとした報告ができていなかったことに気がきました。今後は5W1Hを念頭にしっかり書くようにしなくてはと思いました。
ヒヤリハットの記入時、記入の点が足りない所がいくつかあったので今後も気を付けて要所をわかりやすくまとめていきたい。
急変時はどうしても慌ててしまうので、要点を報告できなくなってしまうことがあります。落ち着いて対処できるよう心がけたいと思います。トラブルが起きないように、必ずメモを取るよう習慣付けたいと思います。
ヒヤリハット・アクシデント報告書、報告の仕方など改めて学ぶことができ、実際に慌てないように復習していこうと思いました。
事故発生時に明確に報告するためのポイントを理解できた。施設で記録をする時も明確にできるよう普段から心がけようと思う。
実際に報告書を書いたりグループワークの中で学ぶことが多かった。今回の学びを現場で活かしていきたいと思う。
普段は利用者の転倒などのヒヤリハット・アクシデントをやっていますが、吸引等のヒヤリハット・アクシデントについては初めてなので、今後やっていく上でいつか出てくるものなので、とても興味深い講義でした。
簡単にわかりやすく報告するのは難しいですが、5W1H法で話せるように日頃から気をつけたいです。
インシデント・アクシデント報告書は私が使っているものと違って、少し難しかったです。インシデント・アクシデント報告書の裏の一番下には医師・看護師の助言が3項目に分かれて書く所があったので、良かったと思います。
介護職員などが医療者に連絡を取るタイミングや、緊急を要する状態に気付いたらどうするかなどがわかりました。
ヒヤリハットは施設等によって形式も違うんだと思った。私達が普段使用しているものと違って、記入が少し難しかったです。
吸引は実施してみないと、疑問にも気付かないこともあるかと思う。重要である、という点を押さえて次に臨みたい。
実際に吸引時のヒヤリハットを書くことで、どういう感じで吸引を行っていくのかイメージすることができました。
介護職員等が行う吸引の範囲はとても大事で、看護師への報告に5W1Hが大事だということがわかりました。
報告の仕方が難しかった。明確に伝えることは大事だと思った。
「看護師と介護職はチームの一員、上下の関係ではない」という話が心に残りました。
ヒヤリハット、アクシデント報告書の書き方が難しかった。
よくわかりました。報告書等の見直しを帰社後、再検討したいと思います。
ヒヤリハットの報告は何回か書いたことがありますが、わかりやすくと言うよりは、ただ書けば良いんだと思っていました。書く必要がない方が良いのですが、そのようなことがあれば人が読むことも考えて書きたいと思っています。

講義Ⅴ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説1 川戸美智子
吸引器などの手順や口腔・鼻腔と気管カニューレは別にしていく意識付けをし、きちんと覚えられるようにしたい。
実際に当たり前のように置いてある呼吸器の器具の名前や使い方などを改めて学び、基礎が理解できて良かったです。
説明がわかりやすかったです。イメージトレーニングと名称を覚えなくてはと思っています。
医療器具の名称を覚えるのが大変そうだなと感じました。どのような状態が良くて、どのような状態が悪いのかをしっかりと学びたいと思います。
吸引器を知ることで、これから「自分がやっていく」という意識をさらに強めることができました。
ポイントを教えていただいたので、わかりやすかった。
資料がどのページかなどの説明がなく、戸惑った。親身に教えていただき、ありがとうございました。
吸引の器具・留意点などわかりやすくしっかりと教えていただいた。
読んでみる・見てみるだけでは覚えているようでわかっていなかったもので、実際に触れてみてよくわかりました。
講義内容はとてもまとまっていて、理解できた。喀痰吸引実施手順について、しっかりと覚えたいと思う。
わからない器具の名前が多かったので、しっかり復習したいと思う。
吸引器を使用する際の確認事項や留意点を学ぶことができて良かったです。
実際に必要な備品と方法を学ぶ上で、適切なノウハウを習得するには時間がかかりそうだと感じ、きちんと学ぶ必要があると思いました。
吸引器と必要物品の種類や仕組みなどわかりやすかった。施設に戻った時、再確認します。
注意点を知ることにより、より良いケアができると確信しています。
沢山の物品が出てきたので、しっかり覚えようと思いました。
同じ吸引器にも色々な種類があることを学べた。
吸引の物品を説明していただきましたが、やはり1回では頭に入らないと思いました。

講義Ⅵ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説2 川戸美智子
1つ1つ吸引器などをいじりながら確認していき、覚えられるようにしたい。
必要な物品を覚えることができました。しかし、タオルの使い方がよくわかりません。
口腔内はある程度見えますが、鼻腔・気管切開内は見えないので難しそうです。
実際に器具を使って目と手で学ぶことができ、勉強になりました。挿入する長さが難しかったです。
普段、自分の病院で吸引器の洗浄や、部品の修理に出したりと携わっていましたが、何のためにこの部分があるのか深く学んだことがなく、勉強になりました。
病院で使用している吸引器と違うため、物品が多い。覚えるのが大変だが頑張ろうと思う。
実際に物品などを触って動かしてみても良かったです。
部品の種類が多く、覚えるのが大変そうです。明日からの講習で覚えられるように頑張ります。
口腔・鼻腔・気管カニューレの各箇所により、カテーテルを挿入する際の長さややりづらを知ることができました。
吸引器の各部の名称などしっかりと覚えて理解したいと思います。
実技があり、吸引器の名称も覚えられて良かったです。
気管カニューレの留意点、吸引チューブは口・鼻に入れる長さが違っており、実際は見えない体内で行っていくので、人形を使って経験を重ねてしっかり覚えていかないといけないと思った。
部品の名前を覚えるのが大変でした。再度見直します。
吸引器の名前に関しては、学習し、覚えていきたいです。使い方が手順に従って行えるか不安なので、明日以降、しっかりと覚えたいと思います。
講義の中で、吸引器と必要物品を学んだ。それらを含め、安全に使用していきたい。
吸引器を初めて触って、名前や消毒方法などを知り、内容の理解が難しく、不安を感じました。
これから実習でやっていくことなので、実際に触ることができて良かったです。
実物（チューブ等）を使ってグループワークを行うことができて、本番をイメージすることができました。また、わからない所も質問すると、個人的に細かく教えていただくことができて勉強になりました。
吸引器の名称がわからない物が沢山ありましたが、取り扱いをしながら1つ1つ確認するうちに覚えることができ、良かったです。
川戸先生のおっしゃるように、ここが二番目に不安に思っていた所だったので、少しだけでも理解することができて嬉しかったです。実際に触らせていただき、少し感覚がつかめた気がします。
実際に人形で口・鼻・気管にチューブを入れ、どのぐらい入れたら良いかわかりました。不安ですが頑張ります。
吸引器の名前を覚えるのが大変でした。最後の方のスライドが早くて覚えられませんでした。
吸引人形にチューブを実際に入れてみて、口腔内への入れにくさ、気管・鼻腔へ入れる長さを知った。
吸引の練習をしてみて、難しさがよくわかった。
喀痰吸引で用いる器具・器材とその仕組みを受けて、実施している名前を確認しながら内容を理解し、取り組んでいきたいと思います。

実際に吸引器を使うことにより、勉強になりました。物品・手順などまだまだ不安ですが、真剣に取り組み、会得したと思います。
鼻からの吸引の時にどこまで入れたら良いのかわからなかった。早く感覚を覚えたい。
機器の名前がよくわかった。挿入してみて、思った以上に難しいことがわかった。
現場で使用している物品と多少の違いはあったが、問題ない程度で安心しました。

平成26年5月27日【4日目】

講義Ⅰ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説2 川戸美智子
手順を間違えず覚えることは利用者にとってとても大切なことなので、覚えられるようにしたい。
喀痰吸引の方法を細かく説明していただいていたありがとうございます。
わかりやすい講義でした。前回のおさらいもしていただいたので、自分自身も復習することができました。
丁寧に教えていただきありがとうございます。実習までにイメージトレーニングをしてみます。
手技はやれば15秒以内なので、実際は早いと思いますが、今回は順序を覚えなければいけないことを考えると、絶対何か抜けてしまいそうで心配です。頭の中に入り切らないのが正直な所です。
わかりやすい手順書を作成していただき、それを読んで理解できるように頑張ります。
実際に物品を使用しながら行ってくれたのはとてもわかりやすかったが、後ろの方でやっている時は、「これが」「あれが」と言われても何が何だかわからなかった。テキストを読む時も早口でとてもわかりにくい。
口腔内・鼻腔内・気管カニューレの吸引手順を評価項目に沿って講義していただきました。実施手順をよく理解し、実施できるよう学習していきたいと思います。
喀痰吸引の流れについて、重要な部分がまとまっていたため、とてもわかりやすかったです。
昨日の振り返りから始まり、手順もわかりやすく説明していただき、良かったです。
評価項目の内容をしっかりと覚えて、自分なりにわかりやすく的確に行動できるようにしておきたい。
予習してきましたが、注意点・ポイントなどよく理解できました。確認項目も多いですが、少し前後しても良い場合もあると聞いて安心しました。
吸引の手順自体、しっかりと何度も行っていかないと覚えられないだろうなと思いました。先生の言葉が聞き取りにくく、時々なんとおっしゃっているのかわかりませんでした。
物品を見ながら1つ1つ丁寧に解説していただいて、理解しやすかった。重要なことは何度も説明していただいたので、頭に入りました。
評価項目について、どのような所に気を付けていけば良いかが理解できた。
講義内容については、実施手順を学ぶことができた。大事な点をしっかりと念頭に入れ、実際の現場で活かせるようにしていきたい。
口腔・鼻腔・気管カニューレの吸入手順を学んだ。試験に向けてしっかり復習した。
早口でわかりづらかった。何がわからないのかもわからず、質問もできませんでした。
昨日、喀痰吸引の手順を教えてくださいましたが、あまり理解できていなかったため、細かく注意点やポイントの部分などを教えていただき、重要な所がわかりました。
喀痰吸引の手順や留意点などがわかりました。
吸引人形を吸引するシミュレーションで「これを演習できちんとできるだろうか」と不安になった。実際には時間がなくてできなかったため、練習していけたらと思う。
ややこしい話ですが、沢山あって覚えるのが大変でした。すごいスピードで説明が色々あったので、時間が早く感じました。
喀痰吸引や気管カニューレ内部の吸引、口腔内・鼻腔内吸引など一通りの手順の流れ、実施しながら覚えていけるようになります。
声かけは大切なポイントだということですね。清潔と不潔の使い分けを間違わないようにしないといけないと感じました。
喀痰吸引の手順が理解できた。清潔と不潔は大事なのでしっかり覚えたい。
手順を覚えられるか不安になったが、何度も確認して覚えたい。
口腔・鼻腔と気管カニューレで手順が違ったりするので、しっかり覚えたいといけなと思った。
文章で覚えると大変と感じるが、実際に実施しながら覚えていきたいと思います。

講義Ⅱ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説2 川戸美智子・脇山千鶴
実技は覚えることが沢山あり、何かを抜かしてしまったり、順番がおかしくなったりとまだまだ全然上手くできませんでした。来月の実技講習までに何度もやって頑張っておきます。
手順の練習を見たり、触ったりして皆で行っていましたが、手順を間違えることが多く、まだまだイメージや練習をしていけないうる感じがしました。
演習の練習をして、手順など安全かつ正確に行っていければいいなと思いました。

実際に行ってみての方が頭に入りやすかったように思います。グループ別の人数が多く、もう少し少人数の方が意見交換しやすいと思いました。
実際に手順を行い、流れを確かめました。とても難しかったです。練習しなければ、と思いました。
必要物品を見て手順が確認できて良かったです。
口腔内・鼻腔内・気管カニューレの手順を実際に体験させていただきました。手順を実際に行うと、上手くできず想像以上に大変だと思いました。
鼻腔と気管カニューレの吸引を評価表の流れに沿ってやりましたが、実際に行ってみると、途中で手順が飛んだり、順序が逆になったり難しかったです。
手順書で動きを想像してみても、実際に吸引人形を使い実践してみると、なかなかできず、戸惑うこともありました。実技試験が不安です。
資料を読み、実際に体を動かして行ってみると、抜けている部分が数多くありました。何度も練習して、身に付けていきたいと思います。
実習をして、手順を勉強しました。何度も練習が必要だと思いました。
いざ実施してみると、単純な作業でも忘れやすいので、1つ1つの作業は確認しながら確実にやるのが大事だと改めて感じました。
気管カニューレ・口腔鼻腔吸引の流れをもと確実に覚えなくてはいけないと思った。演習ではスムーズに行っていたい。
実際に吸引の練習をすることで、やはり頭が真っ白になってしまうため、来月までにしっかりと頭に入れ、動けるようにしたいと思います。
実際に行ってみることで、覚えて自分のものにしていきたいと思った。毎日確認をしていきたい。
実際にグループで行うと、手順通りに行うことの難しさを知った。スムーズな喀痰吸引を目指して学んでいきたいと思う。
実習で班の方達と助け合いながら体験することができました。
喀痰吸引実施の手順を教えてください、グループで集まって何が抜けていたか話し合うことができました。手順の流れをイメージすることができて良かったです。実際に試験をやるとわからなくなりそうなので、実際に触って練習してみることで、積極的に覚えたいと思います。
実際に演習をしてみると、不安な所が出てきて、実際に行ってみることの大切さもわかりました。
実際にやってみての疑問も沸いたので勉強になりました。実施までに練習します。
初めてなので手順がわからず、次の行動に移すことができませんでした。
実際に吸引器などを使用して覚えることで、現実感があってわかりやすかった。
口腔・鼻腔の吸引と気管カニューレの吸引を混合しないように注意が必要だと感じた。
時間が足りない感じでしたが、実際にアレコレすることができて、イメージが沸いてきたので良かった。
準備物や手順など何度かシミュレーションを重ねないと上達しないと思いました。
演習が難しかった。細かい手技が上手くいかなかったので、何回も練習が必要だと思った。
いざ実際にしてみると想像以上に難しかったです。
頭では理解したものの、実際やってみるとかなり不安になりました。
吸引の流れをやってみたが、手順を覚えないと、次に何をすれば良いかわからなかった。
頭では理解したつもりであったが、実際に行くと不十分な項目が多々あり、勉強になりました。実施にて合格できるように頑張ります。
手順通りにやらないといけないとわかっていても、忘れてしまっただうにもなりません。練習します。

講義Ⅲ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説3 佐々木淳
痰を出しやすくすることは、私達の設備では看護師が中心にやっているの、ほとんど関わることが少なかったが、今後はきちんと理解し、吸引に望んでいけるようにしたい。
口腔ケアの重要性と必要性、大切さが改めて理解できました。
ゆっくり丁寧に現場の話も織り交ぜて話していただいたので、楽しく学べました。
痰を出すための適切なケアを教えてください勉強になりました。
ゆっくり話していただき、大切な所も繰り返し仰っていただいたので、親切だと感じました。
吸引より深い痰の排出のために介護職員にできること、正しく客観的に報告することを学びました。
普段の生活で積極的に体位ドレナージを取り入れていきたいと思いました。
痰を出しやすくするケア、口腔ケア、記録の書き方など再確認しながら学ぶことができた。
痰を出しやすくするための体位ドレナージが勉強できて良かったです。
今回の研修のためだけではなく、普段の業務で必要なことなんだと改めて思いました。
講義はまとまっていて理解できた。今後、様々なケアや報告を行う中で、それらの学びを取り入れたいと思う。
胃ろうの利用者の口腔の回数を少なくしていたが、自浄作用ができなくなり、感染症を起こしやすいと知った。施設に戻ったら見直したいと思った。